

1 万人を対象とした全国方言意識 Web 調査に基づく話者類型の抽出
— 「方言育ち共通語話者」の地域差・年代差を中心に—
田中ゆかり, 前田忠彦, 林直樹, 相澤正夫

本発表では、発表者が 2015 年に実施し全国の 20 歳以上の男女約 1 万人から回答を得た方言意識 Web 調査（2015 年全国方言意識 Web 調査）のデータを用い、潜在クラス分析によって導かれた話者類型を示す。

2015 年全国方言意識 Web 調査は、発表者が 2010 年に実施し全国の 16 歳以上の男女 1,347 人から回答を得た方言意識面接調査のデータの分析結果をうけ、そこで明らかとなった課題を解決するために企画・実施された。具体的には、田中ゆかり・前田忠彦(2012)「話者分類に基づく地域類型化の試み—全国方言意識調査データを用いた潜在クラス分析による検討—」（『国立国語研究所論集』3）の成果を踏まえ、回収サンプル数を大幅に増やす工夫をした上で、「出身地（生育地）に方言があるか」という判断を求める質問項目を追加して実施されたものである。

2015 年全国方言意識 Web 調査データを用いた潜在クラス分析によって、「消極的使い分け派」「積極的方言話者」「積極的使い分け派」「方言育ち共通語話者」「共通語話者」「判断逡巡派 1」「判断逡巡派 2」の話者類型が抽出された（類型の配列はクラスサイズの大きい順）。田中・前田（2012）で示した五つの話者類型に加え、「方言育ち共通語話者」が新たに抽出され、また「判断逡巡派」が二つに分かれたことにより、話者類型の数は七つとなった。

さらに本発表では、新たな話者類型として抽出された「方言育ち共通語話者」への地域（生育地）ブロックと年代の各カテゴリに対する帰属確率平均値に注目し、当該話者類型の特徴記述を試みた。その結果、「方言育ち共通語話者」は、(1) 典型的な「共通語話者」地域である首都圏を除く東日本全域ならびに沖縄に帰属確率平均値が高いこと、(2) 1980 年代以前に青年期を迎えた調査時 60 代以上（概ね 1955（昭和 30）年より前に生まれた世代）に帰属確率平均値が高いことが確認された。